「東京へ立ち寄って思わされたこと」

早くも8月になりました。連日酷暑が続く中で、部屋の中にいても熱中症になることもあるようです。皆様のご健康が守られ、支えられますように、また体調のすぐれない方々の上にも神様からの回復と平安、そしていやしがありますようにお祈りいたします。

先日、群馬県の実家に帰省した際に、東京で一泊しました。子どもたちにとって新幹線に乗るのは初めてのことであり、東京で時間を過ごすことも初めてのことでした。かつて群馬県館林市に住んでいた時に、東京に出るためには東武鉄道伊勢崎線を利用して浅草まで行くのが一番の近道でした。しばらく前にその東武伊勢崎線の沿線に「東京スカイツリーができた」ということを聞いていましたので、いつか行くことができればと願っていました。浅草駅から次の駅であり、「東京スカイツリー駅」という駅名でした。かつては「業平橋（なりひらばし）駅」と呼ばれていました。

いろいろ調べてから東京スカイツリーに行きましたが、東京スカイツリーは世界で一番高い自立式電波塔（タワー）で634メートルの高さです。実際に建物としてはアラブ首長国連邦ドバイにあるブルジュ・ハリファというビルディングは828メートルあり、複合商業施設として使われているようです。ちなみに中国上海にある上海タワーは632メートルある超高層ビルであり、東京スカイツリーと高さを競い合いながら、少しずつ、それぞれが高さを上げていき、それぞれが今の高さで落ち着いたようです。

聖書に出てくる「バベルの塔」は比較的有名なお話です。お話と言っても、聖書に書かれた記事ですから歴史的に存在した塔でした。旧約聖書の創世記11章には「バベルの塔」の建設の様子や人々の心の様子をうかがい知ることができます。特に創世記11章4節には**「彼らは言った。『さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届くまで塔を建てよう。名をあげよう。われわれが地の全面に散らされるといけないから。』」**とあります。

人々は天にも届くような塔を建てようとしました。まさに神になろうとしたので、人間のその高慢に対して、神様はさばきを下され、言葉の混乱が起き、それぞれが各地へ散らばって行きました。それまでは**「全地は一つの話しことば、一つの共通のことば」**（創世記11章1節）でしたから、一つの大きな出来事が起きました。

瀝青（アスファルト）を用いたり、塔を造ったりすること自体が問題ではありませんでした。彼らはそれによって自分たちの名をあげようとしたこと、高慢になったことが大きな問題でした。人はこうした瀝青（アスファルト）を用いて、自分たちの手のわざを誇るようになり、すでに神にでもなったかのように高ぶってしまいました。頂が天に届く塔を造ることによって、彼らは神様を無視し、神様に対抗しようとしました。彼らは愚かにも自分たちの力、自分たちの手で、神のさばきを防げるとさえ思ったのでしょうか。それが根本的な間違いであり、認識の違いでした。

創世記11章9節には**「それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。そこで、主が全地の話ことばを混乱させ、そこから主が人々を地の前面に散らされたからである。」**と書かれてありますように、人間の高慢と反逆の結果、神様がなされたことがここに書かれています。

東京には多くの人たちが住んでいます。どこに行っても人、人、人です。人々の心はどこに向かっているのでしょうか。浅草駅周辺の仲見世通りやアーケードの商店街には外国からの観光客がたくさんいました。ことばはよく分かりませんでしたが、欧米からの観光客だけでなくアジアからの観光客もたくさんいました。この暑い、湿度の高い時期に敢えて日本に来られることに大変感心しました。現代でも、標高の高い建物を建てることそのものに問題があるわけではありません。その建物や塔（タワー）にはそれぞれ大きな目的や役割があると思います。実際に多くの労力によって建物が建て上げられ、完成されて行きます。私たち人間にとって大切なことは、生けるまことの神様の御前にへりくだって、謙遜に歩むことです。**「高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。」**（箴言16章18節）とある通りです。私たちは神様の御前にどのような存在であるのかを絶えず確認し、このような私たちに神様のご計画があることをさらに確信したいと願っています。暑い日が続く中、皆様の日々の歩みが支えられますようにお祈りいたします。

国分寺キリス教会　牧師　　原　一　2023年8月